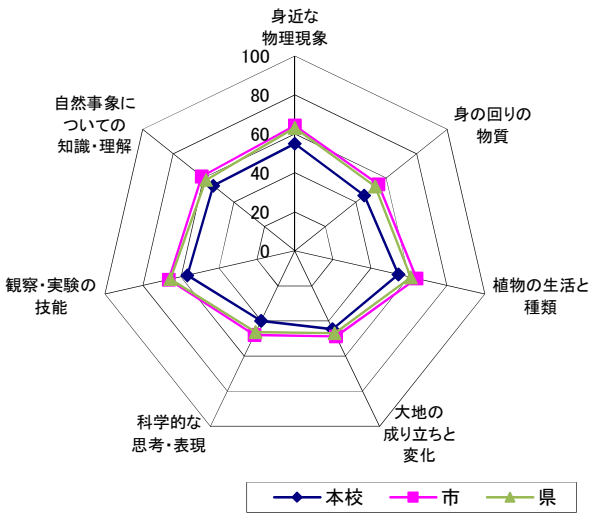


宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	55.0	64.3	63.2
	身の回りの物質	45.6	54.8	52.8
	植物の生活と種類	54.5	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	44.7	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	39.9	48.0	46.4
	観察・実験の技能	56.6	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	53.6	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	本校の正答率は55.0ポイントであり、県と比べて8.2ポイント下回っている。 ○物体にはたらく力を答える問題では、比較的正答率が高い。 ●実験の予想が適切であったか、実験結果を元に考察する問題では、正答率が非常に低い。	・「身近な物理現象」では、鏡やモノコードを使用した実験を行い、身近な物理現象を体験し、論理的に説明できるように指導していきたい。
身の回りの物質	本校の正答率は45.6%であり、県と比べて7.2ポイント下回っている。 ○水素の性質についての問題では、比較的正答率が高い。 ●水溶液の質量パーセント濃度を求める問題では、正答率が低く、県との差が大きい。	・「身の回りの物質」では、物質は目に見えない小さな粒子が集まってできていることを指導し、状態の変化を理解させたい。また、ガスバーナーを使った実験をしっかり行い、実験技能の確実な定着を図りたい。
植物の生活と種類	本校の正答率は54.5%であり、県と比べて6.6ポイント下回っている。 ○顕微鏡の操作に関する問題では、比較的正答率が高かった。 ●気孔からの蒸散量を調べる実験について記述式で回答する問題では、正答率が低い。	・「植物の生活と種類」では、身近な植物を教材に取り上げ、実物を観察しながら植物の分類について考えさせる授業を展開していきたい。また、観察を通して、自然現象を考察する力を育てていきたい。
大地の成り立ちと変化	本校の正答率は44.7%であり、県と比べてポイント下回っている。 ○柱状図を用いた地層の様子を考える問題では、比較的正答率が高く、県を上回っている。 ●地震計の波形から初期微動継続時間を求める問題では、正答率が低い。	・「大地の成り立ち」では、マグマの粘りけと造岩鉱物を関連づけて指導していく。また、地震の波の伝わり方について、モデルやコンピュータシミュレーションを用い、生徒の関心を高めながら指導していく。